

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	大台町 24443
地域名 (地域内農業集落名)	下真手地区 (下真手)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	22.1 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	8.7 ha
② 田の面積	7.7 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	1 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.4 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地域は、人口252人、高齢化率44%である。宮川沿いに位置し、水稻を中心とした農業がなされているが、一部、松阪牛の肥育農家も存在する。

農業機械、農業資材の高騰、米価の低迷により、水稻耕作では収支が成立せず、後継者が見込めない。加えて、獣害が更に追い打ちをかけている状況である。農地も傾斜があり、非効率な農業を強いられる。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

水稻を中心とした農業を継続していく。地域内でも更に話し合いを進め、耕作するのか、維持保全するのかの議論も合わせて、農地管理を請け負う団体の設立を目指す。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

現状で離農・規模縮小を検討している農地については農業法人が引き受けられるが、高齢化が進むにつれてその面積が大きくなることから、集落内後継者

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	5.7 %	将来の目標とする集積率	5.7 %
--------	-------	-------------	-------

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

今後は地権者と耕作者の合意の下で農地の集約化を行い、農業者にとって効率的な農地の活用を目指す。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
効率を上げるために望ましいことだと考える。例えば、地区を4ブロックに分け、それぞれ地の利を活かした農作物の調査も行いたい。
(2)農地中間管理機構の活用方法
農地の貸借については、原則、農地中間管理機構を通じて行っていく。
(3)基盤整備事業への取組
特になし
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
次世代が喜び、楽しみ、達成感を得る農業にしない限り、後継者の確保は難しい。少しでもその環境に近づけるべく地域内での営農組織の立ち上げが急務である。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
現在の農家が後継者がいないまま高齢化するのであれば作業料金にもよるが、必要なことである。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)									
☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等					
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他					
【選択した上記の取組内容】									
①獣害防護柵の設置補助金(町事業)の活用や猟友会員との連携により、対策を継続していく。									
②④⑦⑨畜産農家もあるため、少しでも循環型農業の構築に努めたい。									

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 15 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		水稻	0.23 ha	- ha	水稻	0.23 ha	- ha	A	
利用者		水稻	0.33 ha	- ha	水稻	0.33 ha	- ha	B	
利用者		水稻	3.6 ha	- ha	水稻	3.6 ha	- ha	C	
利用者		水稻	0.16 ha	- ha	水稻	0.16 ha	- ha	D	
利用者		水稻	0.2 ha	- ha	水稻	0.2 ha	- ha	E	
利用者		水稻	0.1 ha	- ha	水稻	0.1 ha	- ha	F	
利用者		水稻	0.12 ha	- ha	水稻	0.12 ha	- ha	G	
利用者		水稻	0.05 ha	- ha	水稻	0.05 ha	- ha	H	
認農		畜産	0.37 ha	ha	畜産	0.37 ha	ha	I	
認農		畜産	0.67 ha	ha	畜産	0.67 ha	ha	J	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計			5.83 ha	0 ha		5.83 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。